

Twinkle No.8 2017.09.01

川崎こどもクリニック附属病児保育室リトルスター <http://www.kawasaki-kc.jp/littlestar.html>

〒597-0102 貝塚市木積 607-10 TEL/FAX 072-446-0415 little-star@kawasaki-kc.jp

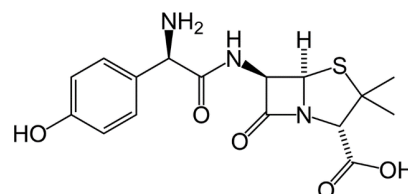
くすりの話②抗菌薬（その1）

抗菌薬というより抗生物質という呼び方の方が、なじみがあるかもしれません。ペニシリンを始めとして、もともとカビが作り、菌を殺したりする作用がある物質を抗生物質と呼びました。そのうち、そういった物質の中から抗がん作用のある物質も見つかったり、またカビが作るのではなく化学合成で菌を殺す作用のある物質が作られたりするようになりました。そういったことから、現在では抗生物質や抗生剤といった言葉より、「抗菌薬」という言葉が使われることが多くなっています。



抗菌薬にはいろいろな種類があります。先ほど名前の出たペニシリン系の抗菌薬は腸からの吸収も比較的良く、抗菌力も強く、値段も安いので使いやすい抗菌薬です。弱点を言うならば、耐性菌が増えてきているので、それに注意が必要なところでしょうか。ペニシリン系抗菌薬と化学構造が似ているの

が、セフェム系の抗菌薬です。ペニシリンもセフェムも人間



の体にはない細菌の細胞壁（動物の細胞の表面には細胞膜はあるが細胞壁はない）にダメージを加えますので、比較的副作用が少ないです。マクロライド系抗菌薬はこれら2系統とは全く化学構造が違い、マイコプラズマにも効果がある抗菌薬です。（ペニシリン系などでは効果はありません。）

このように、一口に抗菌薬といっても種類があり、細菌に対する効果（言い換えれば得意分野といっても良いかもしれません）は様々です。抗菌薬には、その他アミノグリコシド系、テトラサイクリン系、ニューキノロン系などいろいろな特徴を持ったものがあり、医師はそれぞれの抗菌活性や体内での吸収排泄などを考えて処方しています。

＜写真と図は、ペニシリン系抗菌薬の代表的なものであるアモキシシリンの画像と化学構造式＞

RSウイルス感染症

現在保育所でもっとも流行しているのが、RSウイルス感染症ではないでしょうか。呼吸器細胞に感染して合胞体と呼ばれる構造物を作るため Respiratory syncytial virus（呼吸器合胞体ウイルス）、頭文字を取ってRSウイルス感染症と呼ばれます。ウイルスは大きくA型とB型の2つの型に分けられ、当然のことながら何回かかかる可能性があります。

何回か罹っているうちには症状は軽くてすむようになりますが、生後数週から1歳までの期間に罹ると入院が必要なほどの呼吸困難や無呼吸とい

った重症な症状を引き起こします。特に、低出生体重児、あるいは心肺系の基礎疾患や免疫不全のある場合には重症化のリスクが高いです。このため以上のようなハイリスクの乳幼児に対しては、秋から冬にかけての流行期に月1回シナジスという薬の筋肉内注射を行って予防します。

保育所内での流行も厄介です。Twinkle No.2でも取り上げた標準予防策の徹底を行うとともに、くしゃみなどによってテーブルの上などにばらまかれたウイルスを拭き取るということも実施されることをお勧めします。